



いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

# 「みとめあうってすてきだね」10

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

## コッコさんのともだち 片山健／さく・え 福音館書店

ほいくえんでひとりぼっちだったコッコさんにはじめてともだちができました。なまえはアミちゃん。いつもいっしょのふたりでしたが、はじめてけんかをして、はじめてほかのことあそびました。

## おにいちゃんとぼく ローレンス・シメル／文 ファン・カミーロ・マヨルガ／絵 宇野和美／訳 光村教育図書

おにいちゃんはすごい。記憶力がよくて、どこになにを置いたかよくおぼえている。夜、電気を消しても点字の本を読んでいる。目のみえないおにいちゃんとのからしを、自然にあたたかく描く。

## みんなにやさしく パット・ズイトウロウ・ミラー／ぶん ジェン・ヒル／え ドリアン助川／やく イマジネーション・プラス

ジュースがこぼれて服が紫色になったタニーシャを見てみんなが笑った。元気づけてあげたくて声をかけたけど、その言葉じゃだめだったみたい。人にやさしくするのってむずかしい。

## マチルダとふたりのパパ メル・エリオット／さく 三辺律子／やく 岩崎書店

てんこうせいのでマチルダにはおとうさんがふたりいて、おかあさんはいない。おとうさんとあそぶのがだいすきなパールは、マチルダのうちにあそびに行くのをたのしみにしていたが・・・。多様な家族のあり方が自然に伝わってくる。

## ねえさんの青いヒジャブ イブティハージ・ムハンマド&S・K・アリ／文 ハテム・アリ／絵 野坂悦子／訳 BL出版

ねえさんがヒジャブをえらぶ日、空のような海のような青いヒジャブをえらんだ。そのヒジャブをつけて学校へ行ったねえさんは、笑われたり、からかわれたりした。でもねえさんは、堂々としていた。作者はイスラム教徒で、ヒジャブをつけてオリンピックに出場したはじめての選手。

## 一本の線をひくと 藤川幸之助／さく 寺田智恵／え クリエイツかもがわ

となりのクラスのかすみちゃんのおばあちゃんは怪獣みたいな変な声で叫んで、まるで別の世界の人みたい。でも次の日会ったおばあちゃんはぼくを誰かとまちがえてやさしく声をかけてくれたよ。認知症の人への理解が深まる絵本。